

# 創刊号の発刊に寄せて

留学生教育センター長 坂本 浩

本学留学生教育センターは、「留学生に対する教育指導の充実発展に寄与するために、留学生に対し日本語等に関する教育を実施し、これに必要な事項について調査研究を行うと共に、留学生の修学、生活上の相談及び指導業務を体系的かつ総合的に行う」ことを目的として2年前に学内措置で設置されました。

この目的の中の大きな柱の一つは、「センターの業務に必要な調査研究を行うこととセンターにおける留学生の教育について専門的・技術的な指導を行う」ための“研究員”及び“客員研究員”を置くことです。“研究員”は本学専任教員の他に本学名誉教授と外国人研究者，“客員研究員”は本学外の適任者が該当します。そして毎年4月と9月に部局長又はセンター長の推薦によりそれぞれ研究テーマを持って御参加戴くこととしています。実際は1990年度後期からでしたが、当初から多数（16名）の御協力を得て、センターでは研究員協議会（責任者 島田文学部教授）として組織化し、活動がスタートしました。

留学生には、日本語や日本の社会・文化及び日本人の理解、異郷での修学・生活の中で遭遇する制度・習慣・宗教、コミュニケーションの方法、経済上の困難など、多岐にわたる諸問題が様々な形と程度で存在し、本来の修学目的に対する handicap となっています。我々は歴史的にみても古くは中国、近代は専ら欧米に向けて留学し、あるいはその文明・文化を輸入して“学ぶ”と言う立場が強かったために、外国から迎えて指導したり、共に学び生活することには不慣れです。日本人の国民性も社会も、大学など高等教育機関でも外国人の存在を前提としない仕組みになっています。しかし、現代の国家・社会は諸外国との相互依存を前提として成立しており、グローバリゼーションの新しい進展に伴いその依存度は益々強くなっています。このような中で、留学の意図・目的・態様も多様化し、大衆化してきました。したがって、我々は受け入れ側としても、送り手としても、このような変化に応じて国際的に通用するシステムと人材をもたなければなりません。特に教育・研究機関としての大学におけるこのための責務は極めて大きく、急増する留学生への対応を通じて我々自身が常に努力して学び改めることが多々あります。

センターの研究員制度はこのような状況を背景にしていますが、本学には既に国際性に優れた経験の深いエキスパートが沢山おられ、現協議会はいこれらの方々の知恵と力を結集して、その実を挙げんとしています。研究員の方々は、日常の本務に加えて、留学生のための日本語教育の諸問題や、留学生の修学・生活面での動向調査などに精力的に努力を続けられており、研究討論や発表会をもち、また協議会主催の特別講演会も毎学期に開催されてきました。個人レベルでもそれぞれの専門性の中で研究調査や実際の教育指導等に情熱を傾注されています。

このような活動の成果を印刷物の形で公表して大方の参考とし、更に今後の活動への礎と致すべ

く、本『留学生教育センター紀要』を発刊することとしました。本号はその最初の試みですが、これまでの高いレベルの内容の一端を十分にお伝えできているものと存じます。編集の任に当たられた島田教授と御寄稿を賜りました各位に敬意を表すると共に、創刊をお祝い申し上げます。

本学留学生教育センターの設立とその経過や内容については“金沢大学留学生教育センターだより”創刊号（1992.3）を参照賜りたく存じますが、本センターは、学生部留学生係2名のみを専任としてスタートしたばかりです。これを機に、学内外から研究員としても積極的に参加下さり、御協力・御支援をお願い申し上げます。そうして、本学における留学生教育を充実発展し、本紀要がそれを伝えるシンボルとして、また研究交流の場として役立つことを祈念いたします。